

担当課評価基準
 A…基本事業の実績が計画以上
 B…基本事業の実績が計画どおり
 C…基本事業の実績が計画以下

■第2期における実施計画

△:検討 ●:実施 →:継続

1. 魅力向上戦略

基本事業	事業概要	第2期				第3期以降の見通し
		R3	R4	R5	R6	
(1)観光地の魅力向上	本市は、ポテンシャルの高い多様な観光資源を有していますが、魅力的な観光地としての磨き上げや統一的なイメージによるイメージ形成が課題となっています。誰もが訪れたいと思える魅力的なまちづくりの推進と観光インフラの整備により、観光地としての価値の向上を図ります。					
①忍者の歴史・実態の調査と発信	現代に続く忍者の痕跡や、忍者の実態を示す個人所有の古文書等資料の調査を行う、甲賀流忍者調査団「ニンジャファインダーズ」の取り組みをはじめとして、本物の忍者の実像につながる歴史的・文化的資料の発掘・調査と発信に取り組めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 A 甲賀流リアル忍者館の展示室において、甲賀流忍者調査団の調査結果や活動成果、古文書等の展示を引き続き実施しました。また、地域おこし協力隊の福島崇仁隊員が地域や関係団体と連携し、調査を行った結果、忍術書「間林清陽」を発見したことを受け、忍者調査団団長である磯田道史国際日本文化研究センター教授と、今後の調査等の協議を実施しました。					
②“忍者の里”の雰囲気醸成	日本遺産構成文化財へ誘導するサイン整備や甲賀流リアル忍者館を中心とした整備を進め、観光案内板の意匠や商店のディスプレイ等、来訪者に“忍者の里”を感じさせる身近な取り組みについて、関係者と連携して推進します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B 日本遺産構成文化財のサイン整備については、案内看板4箇所や道標2箇所に設置しました。また、甲賀流リアル忍者館においては、“忍者の実像”のパネル展や子ども向けの忍者教室を3回開催し、忍者の里を身近に感じていただく取り組みを実施しました。					
③観光インフォメーションセンターの機能強化	本市の観光ゲートウェイとして位置付けた甲賀流リアル忍者館のインフォメーション機能を強化し、併せて、市内各施設の受け入れ体制の充実を図り、きめ細かな観光案内体制を整えます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B 甲賀流リアル忍者館の施設運営管理について、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、令和3年度から新たに地域おこし協力隊の福島崇仁隊員に甲賀流リアル忍者館の運営に携わっていただき、忍者観光に係る受け入れ体制の充実を図るとともに、ゴルフ場の紹介コーナーや市内飲食店舗の紹介コーナーを新たに設置しました。					
④観光拠点施設の整備及び観光資源のネットワーク化	忍者を核とした観光拠点整備基本計画に基づき、観光拠点整備を公民連携で進めるとともに、市内に点在する豊かな観光資源の磨き上げや、誘客促進につながる整備を市民・施設管理者と連携して取り組めます。また、整備については、PFIなど民間活力の活用手法を継続的に検討しながら、観光インフラ整備や観光資源のネットワーク化を進めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B 忍者を核とした観光拠点整備基本計画に基づき、2次整備に向けた測量業務等を行いました。また、飯道山の周遊ルート整備として、登山道の修繕や案内看板4箇所・ベンチの設置6箇所、眺望ポイントの樹木伐採等の環境整備を実施しました。					
⑤道の駅の再整備	道の駅あいの土山再整備基本計画に基づき、観光情報の発信の他、お茶をはじめとする農産物の販売促進や信楽焼などの地場産業、地域の活性化を目的として、道の駅の再整備を進めます。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B 道の駅あいの土山マーケティング調査及び経営改善プランをもとに、施設の方向性や備えるべき機能などを盛り込んだ「道の駅再整備基本計画」を策定しました。					
(2)市民と連携した資源開発	魅力的な観光地の基礎となる魅力的なまちづくりには、市民・事業者・関係団体の主体的な参加が不可欠です。市民参加型の観光資源の開発を進めることで、地域の活性化と連動した観光まちづくりを推進します。					
①市民協働によるおもてなし体制づくりと観光資源開発	市民の自主的な活動として取り組まれる、歴史体験提供や語り部活動等に代表される甲賀流おもてなし体制づくり、観光地の磨き上げ、地域観光資源のPR等の活動について、協働による取り組みを推進します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B スカーレット効果を一過性に終わらせないために、「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会においてスカーレットレガシーを活用した受け入れ体制整備や情報発信、観光誘客事業に取り組めました。また、(一社)甲賀市観光まちづくり協会、観光ボランティアガイド連絡協議会と連携し、観光おもてなし体制推進事業として、接遇やプロガイドの講義を観光ボランティアガイド向けに開催し、ボランティアガイドの持つ知識や経験をデータ化し、後継者育成のためのマニュアルとなるDVDの作成を行いました。					

②東海道における「暮らし・にぎわい」の再生		水口宿・土山宿において、市街地の空洞化対策などの「暮らし(居住環境)」と歴史文化財を活用した「にぎわい(観光による地域経済)」の再生に向けて、地域住民、関係団体とともに取り組みます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「東海道にぎわい再生事業」により、甲賀市観光まちづくり協会や「東海国土山水口宿場会議」と連携し、東海道絵地図(岩上～大野版、水口宿以西地区版)の増刷、東海道宿場の景観を醸成する看板を4箇所を設置しました。また、東海国土山水口宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海国土山水口宿にぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めました。					
③市民主体の観光まちづくりの促進と地域の誇りの醸成		市民有志との連携による、観光地の評価・検証と観光資源の磨き上げ、歴史的背景や文化的意義の学習・発信を推進し、市民主体の観光まちづくりを促進するとともに、地域の誇りの醸成を図ります。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	歴史文化都市構築補助事業について、安全対策を充実させるため、補助金を増額し、新型コロナ対策を図るとともに、観光事業等継続支援補助において、イベント等の中止・延期にかかる経費の補助を行いました。(観光事業等継続支援補助交付実績 6件 854千円)(歴史文化補助交付実績 20件 5,573千円)					
(3)効果的なPRの推進		いかに魅力的な観光地の形成を進めても、それを広く知らせることができなければ観光振興につなげることはできません。甲賀市の認知度の向上と観光地としてのイメージアップを目的として、「甲賀流」、「忍者」をキーワードとした多角的なPRを推進します。					
①「甲賀ブランド」の再構築及び戦略的活用		認定した商品の出口戦略を見据えるなど、明確な活用方法を整理し、また、ふるさと納税との連携など幅広い活用方法の検討を行い、現状制度の再構築を行います。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	甲賀流リアル忍者館において、甲賀ブランドコーナーを引き続き設置するとともに、一般社団法人東京滋賀県人会と連携し、東京銀座歌舞伎座での甲賀物産フェアにおいて、甲賀ブランドコーナーを設け、PRパネルやパンフレットの設置を行い、登録されている商品のメリットの創出に努めましたが、制度を再構築するまでの検討は出来ませんでした。					
②シティセールスの推進		「甲賀流」を統一キーワードとしたシティセールス、「忍者」を前面に押し出したプロモーションの推進を首都圏等で実施するとともに、それらと市内各地の観光資源とを絡めた展開を図り、統一イメージによる認知度の向上を促進し、関係人口の増加を図ります。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	一般社団法人東京滋賀県人会と連携し、「ここ滋賀」でのイベント実施の他、東京銀座歌舞伎座において、オリンピックの開催期間に合わせて甲賀の観光資源7種のポスター掲示によるPRや、2月の忍者月間には歌舞伎座木挽町広場において、甲賀市物産フェアの開催や銀座メルサでの甲賀のお茶無料配布PRキャンペーンを実施しました。					
③ICTの新たな技術による地元情報の発信		SNSを活用した観光情報の発信や新たなICT技術を取り入れたマーケティング調査に取り組みます。また、観光アプリケーションの活用等も検討し、新しい生活様式への対応や、災害・緊急時の対応も含め、安心して観光できる周遊観光の構築や多言語化対応に取り組みます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	観光情報を市のHPや公式LINEやFacebook、Twitter等を活用し、発信しました。また、(一社)甲賀市観光まちづくり協会、信楽町観光協会や「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会など関連団体とも連携し、各団体のLINEやInstagram等のSNSを活用した情報発信を実施しましたが、新たなICT技術を取り入れたマーケティング調査や多言語化の対応などは実施できませんでした。					
④日本遺産やスカーレットレガシーを活用したPRと観光促進		日本遺産六古窯・信楽焼や甲賀流忍者の魅力やストーリーについて、関連自治体と広域連携した観光誘客を実施します。また、スカーレットレガシーを活用したおもてなし事業や地域活性化事業を公民連携して取り組み、効果的なPRを行います。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会において、スカーレットレガシーを活用した受入れ体制整備や情報発信、観光誘客事業(ドラママップの活用、ドラママップのおすすめルート作成、テレビドラマの世界展衣装購入、イベント後援及び出展、食による物産動画発信、ロケスコ制作、観光PV作成、スカーレットコンサート共催)に取り組みました。また、スカーレット以降増加する市内でのロケに対し、「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会と連携し、ロケ隊のおもてなしや支援を行うことにより、ロケーションを活用した観光振興を図りました。一方、日本遺産については、追加認定された日本遺産構成文化財への案内看板4箇所や道標2箇所の設置や、観光ガイドの養成講座を引き続き取り組み、造成したサイクリングコースを掲載する忍びの里伊賀甲賀サイクリングマップを作成し、大阪万博公園でのサイクルイベントでPRを行いました。また、SNSにより日本遺産構成文化財の紹介を行いました。					

■第2期における実施計画

△:検討 ●:実施 →:継続

2. 誘客促進戦略

(1) 観光ビジネスとの連携		観光振興をまちの活性化と産業振興につなげるためには、本市への観光誘客が観光ビジネスとして成立するものでなくてはなりません。魅力ある観光資源の観光ビジネスへの接続を推進し、市域における宿泊客の増加と観光消費の拡大につながる施策の展開を図ります。				
①公共交通と連携した観光振興	市民の生活交通であり、本市を訪問される方の移動手段としての鉄道やバス等の公共交通を活性化するため、交通政策部署との連携を図りながら、沿線の観光開発によって観光旅客輸送を増やす取り組みを行います。また、公共交通と連携した観光ルートの設定や観光商品の開発に取り組むとともに、ニーズに応じた観光拠点への二次交通の整備を図ります。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	信楽高原鉄道株式会社や「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会等と連携し、スカーレットレガシーである「テレビドラマの世界展」の開催や、信楽高原鉄道の利用促進を図る観光PVの作成を行い、観光誘客を図りましたが、観光拠点への二次交通の整備の取り組みについては実施できませんでした。				
②信楽焼など地場産業をはじめとする他産業との連携促進	信楽焼やお茶、薬などの市内地場産業をはじめとする他産業と観光産業の連携を促進し、ウイズコロナ・アフターコロナを見据えた中で、新たな観光ビジネスや観光商品の創出を図り、観光誘客につなげます。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行いながら、リクルート”じゃらん”のアドバイスを受けながら、新たな観光コンテンツ・体験メニューを10事業者15メニューの造成を行いました。				
③営業活動による販路の開拓と誘客促進	旅行事業者に対する定期的な営業訪問及び説明会への参加、ダイレクトメール等による販路の開拓に努め、特に県内をはじめとする、関西圏及び中京圏等、近隣からの誘客促進を図ります。また、大阪・関西万博からの誘客に向けた営業活動を進めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	歴史文化都市構築事業のバス乗り入れ補助を活用し、市内を周遊いただくツアーバスの造成を促すため、大阪や名古屋等を中心に旅行者へ観光協会とともに営業訪問を行ったことにより、多くのツアー造成に繋げることが出来ました。また、マイクロツーリズム推進事業において、春夏秋冬び関西版に甲賀市特集ページを掲載した他、(株)阪急交通社の旅行カウンター(大阪駅前2カ所、尼崎1カ所駅)や阪急電鉄主要駅13駅の駅ラックにて、観光情報を発信し、誘客に努めました。その他、JR金山駅で甲賀市ブースを設け、観光PRを行いました。				
④ゴルフ事業と連携した誘客促進	ゴルフコース数全国3位である本市の特性をより活かすため、ゴルフ利用客の一層の誘客を図りながら、市内ゴルフ場と連携し、市内の他の観光産業への誘導をはじめ、市内経済活動の活性化につなげます。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	市内ゴルフコース数が全国3位であることを活かし、観光誘客を図るため、甲賀市観光まちづくり協会において誘客事業の検討を進めました。また、首都圏PR事業において、新たにゴルフPRを含めた東京銀座歌舞伎座でのポスター展を実施しましたが、ゴルフ場と連携した具体的な検討は出来ませんでした。				
(2) 誘客事業・イベントの開催		本市の魅力をもっと多くの人に知ってもらおうきっかけとして、誘客事業やイベントの開催は有効な手段となります。甲賀市ファンの増加、リピーターの拡大を目指した取り組みの拡大・充実を進めるとともに、増加するインバウンドの取り込みを図ります。				
①信楽まちなかを核とした観光誘客の強化	信楽焼の芸術性を核に各種の地域資源を織り交ぜながら、新たな信楽の発信による、インバウンドを含む観光誘客の強化や地場産業の活性化を推進します。また、スカーレットレガシーを活用した観光誘客に取り組むとともに、新たな観光の形にも配慮し、信楽を訪れた観光客の市内他地域への回遊促進を図るため、各種団体と連携した取り組みを推進します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	コロナ禍でスカーレットによる観光誘客を活かしきれない状況でありましたが、「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会を中心に、スカーレットレガシーを活かしたテレビドラマの世界展の開催やプロモーションビデオの制作など継続した受入体制整備を実施するとともに、信楽町を入口とした市内への回遊を図るため、ロケスゴ事業やロケツーリズムを促進し、スカーレット効果を一過性に終わらせない取り組みを進めましたが、信楽焼の芸術性を活かした観光誘客の強化や地場産業の活性化に向けた具体的な取り組みは出来ませんでした。				
②甲賀流リアル忍者館を活用した誘客促進	地域おこし協力隊をはじめ、忍者に関係する各種団体と連携しながら、市の観光ゲートウェイの役割を担う観光インフォメーションセンター「甲賀流リアル忍者館」を有効活用した事業を展開し、市内の観光資源への周遊を促進します。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 A	甲賀流リアル忍者館の施設運営管理について、(一社)甲賀市観光まちづくり協会へ業務委託し、地域おこし協力隊の福島崇仁隊員にも企画運営へ関わっていただきながら、設立1周年記念イベント(墨絵師御歌頭氏のライブイベント等)の開催や忍者月間の取り組み(忍者をモチーフとしたアール・ブリュット展)、GOTONINJAクーポン事業を実施するなど、甲賀流忍者を通じた観光誘客を図り、市内への周遊を促す取り組みを実施しました。また、忍者の人気ポケモンキャラクターであるゲッコウガをデザインしたポケふたを設置しました。				
③東海道宿場への誘客促進	東海道を起点として甲賀三大佛(櫛野寺・大池寺・十楽寺)のほか水口岡山城、田村神社など東海道沿いの観光施設のPR促進に努め、宿場のまちなかや近隣地域に人が回遊するためのルート化や相互連携に取り組めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	コロナ禍のため、あいの土山宿場まつり等、東海道関連のイベント事業は中止となりましたが、東海道土山水口宿場会議において宿場の活性化に向けた取組み(パンフレット増刷、看板設置)を進めました。その他、東海道沿線の既存の公共施設において、観光客が利用しやすいようにトイレ看板の整備を行いました。				
④観光産業をめざした多様なツーリズムの推進	広域連携も踏まえたサイクルツーリズム、植樹祭と連携したグリーンツーリズム、ゴルフ場と連携したスポーツツーリズム、大阪・関西万博と連携した自然や歴史文化を活用したエコツーリズムやウェルネスツーリズム、アール・ブリュットを活用したアートツーリズムなど、多様なツーリズムを促進することで、新たな観光の形の検討を進め、観光産業を推進します。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づく、案内看板及びベンチ等を設置し、ウェルネスツーリズムに向けた受入整備を進めました。また、アートツーリズムに向けて、やまなみ工房と連携し、忍者をモチーフとしたアール・ブリュット展を甲賀流リアル忍者館で開催し、相互誘客を図りました。他、伊賀甲賀忍者協議会事業として、地域の自然環境を活かしたサイクルツーリズムの造成を行い、パンフレットの作成や大阪万博公園でのサイクルイベントにてPRを行いました。				

⑤体験プログラム及び体験型ツアー造成	農作業や豊かな自然、郷土料理づくりや地域文化活動などを活用した甲賀市独自の体験プログラムを整備し、民泊等の宿泊事業との連携も含め、体験型観光ツアーの造成を図ります。 また、SDGsを体験できる観光商品となるよう取り組みを進めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業として、甲賀市観光まちづくり協会や信楽町観光協会と連携し、体験コンテンツの造成(10事業者15メニュー)に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、甲賀市都市農村交流事業等の宿泊事業との連携は進められませんでした。				
⑥スカーレットを契機としたロケツーリズムの構築	連続テレビ小説「スカーレット」の舞台に選ばれ、ロケ支援や受入体制整備、誘客事業への活用等を公民連携して取り組んだことを契機として、「スカーレット」だけに留まらない映像作品の誘致と作品を活用したロケツーリズムを推進するため、公民連携した組織体制を構築し、誘客促進や地域活性化を図ります。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	映画やバラエティー番組、情報番組等のロケ支援を行うとともに、「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会と連携し、ロケ隊等のおもてなしや信楽高原鐵道のプロモーションビデオの制作、地元食材を活用したレシピ本や動画の制作等を行うなど、ロケーションを活用した誘客促進や地域活性化を図りました。				
(3) 戦略的マーケティング	実効性のある観光施策の推進のためには、可能な限り客観的な指標・データを根拠として、計画、実施、評価、見直しのPDCAサイクルを回すことが求められます。戦略的マーケティングの視点を確立し、施策効果の測定や事業の見直し、ニーズに基づいた観光商品の開発等の推進に努めます。将来的には、(仮称)甲賀市版観光DMOに業務を引き継ぎ、民間主導による観光振興の充実を図ります。					
①マーケティング・リサーチの実施	観光入込客調査に加え、観光客に対するアンケート調査や事業者からの聞き取り等を実施し、消費者ニーズや実態の把握に努めます。また、近隣観光地や国内旅行の情勢、価格競争力の分析を行い、商品開発と販売戦略に反映します。また、先進地の事例を参考に効果的な指標等の研究を進めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	信楽町観光協会においては観光客を対象にモバイルアンケートを実施しました。また(一社)甲賀市観光まちづくり協会においては取組事業に反映できるよう、甲賀流リアル忍者館の来客者やHP、SNS等の閲覧状況の統計を基に分析を行いました。				
②ニーズに基づいた観光商品の開発促進	ウィズコロナ・アフターコロナにおけるニューノーマルに対応した観光の形態をリサーチし、ニーズを的確に捉え、観光資源の商品化やルート造成など時代に合わせた観光商品開発を促進し、着地型観光の充実を図ります。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、新たな観光コンテンツ・体験メニューを10事業者15メニューの造成を行いました。また、(一社)甲賀市観光まちづくり協会においては、取得した旅行業資格を活用し、7回のツアーを造成販売し、着地型観光を推進しました。				
(4) 新たな観光の形に対応した誘客促進	新型コロナウイルス感染症による世界的な危機は、社会・経済活動に大きなインパクトを与え、「いつもの暮らし」の大切さを再認識することになりました。これからの4年間は、ウィズコロナ・アフターコロナにおける「新しい豊かさ」を追求することとし、観光においても新たな形での誘客促進を図ります。					
①マイクロツーリズムの推進	ウィズコロナ・アフターコロナの観光の形として、団体から個人、遠方から近場へと変化している観光需要に対応したマイクロツーリズムを推進するため、県内をはじめ、移動時間の少ない近隣地域に向けた観光誘客事業を展開します。また、大阪・関西万博を見据えて、着地型観光メニューの造成を行い、誘客を図ります。	●	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	関西圏・中部圏へのPR事業として、「春夏秋冬びあ関西版」へ甲賀市特集記事を掲載しました。(株)阪急交通社の大阪駅前2箇所、尼崎駅前1箇所の旅行カウンターで、また阪急電鉄主要駅11駅の駅ラックにて、観光ポスター、パンフレット、観光映像を掲出し、観光PRを行いました。その他、びわこビクターズビューローと連携し、JR金山駅で甲賀市ブースを設け、観光PRを行いました。				
②周遊型観光メニューの造成	甲賀の身近な魅力を周遊してもらう仕掛けとして、地域の観光資源を磨き上げ、活用し、個人客や団体客などそれぞれのニーズに対応した着地型の周遊型観光メニューの造成を行い、誘客促進による地域経済の活性化を図ります。	●	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が事業協力・連携を行い、リクルート”じゃらん”のアドバイスを受けながら、新たな観光コンテンツ・体験メニューを10事業者15メニューの造成を行いました。				
③ICTを活用したおもてなし観光の充実	観光看板のデジタルサイネージ化やQRコードを活用した説明や多言語化など、ICTを活用した非接触型の観光案内を促進することにより、気軽に安全な観光を楽しめるおもてなし体制づくりを推進します。また、観光ガイドの知識のデータ化など、ICTを活用した育成事業にも取り組みます。	●	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会が観光ボランティアガイド連絡協議会と連携し、観光おもてなし体制推進事業として、観光ガイドの知識をデータ化し、後継者育成のためのマニュアルとなるDVDの作成を行いました。また、市内の観光案内看板4箇所に多言語二次元コードの添付整備を行いました。				

■第2期における実施計画

△:検討 ●:実施 →:継続

3. 地域活性化戦略

(1)市民意識の向上		観光振興とまちづくりを一体的に推進する上で、観光地としてのまちの形成に対する市民理解の促進が不可欠です。地域の歴史・文化に対する理解の向上と観光資源に対する誇りの醸成を図ります。				
①市内観光資源に触れる機会の創出	観光ボランティアガイドや国際交流協会の協力を得ながら、地域の歴史・自然・文化など観光に関する市民向け講座・学習会を開催し、市民の観光への関心と、地域に対する知識や誇りを高めます。 また、学校給食へ地元産食材の活用をするなど、子どもたちが地域のことについて学んだり体験したりできる機会を増やし、観光のまちづくりに参画する人材の育成を図ります。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	甲賀流リアル忍者館の市内小中学校の社会見学について、6校の受け入れを行いました。また、甲賀流リアル忍者館において、令和3年度から新たに小学生児童を対象とした、ちびっこ忍者教室を開催しました。例年、実施している忍者給食においては、給食時に忍者給食のメニュー紹介に合わせ、甲賀流忍術と甲賀流リアル忍者館のPR動画を新たに作成し、全校で放映しました。他、観光ボランティアガイド連絡協議会において、市民向けの歴史講座が開催されました。				
②ツーリズム事業への市民の利用促進	ロケ地巡りや飯道山周遊ルートなど、造成した市内周遊型観光のプランを市民のウェルネスツーリズムにも活用することで、健康増進を図るとともに、本市の観光資源が再認識されることによるシビックプライドの醸成を図ります。	△	●	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「飯道山周辺観光ルート整備活用計画」に基づく、案内看板4箇所・ベンチの設置6箇所を設置するなど、市内周遊型観光のプラン造成に向けた取り組みを行い、ウェルネスツーリズムに向けた受入整備を進めました。また、スカーレットコンサートの開催に合わせたロケ地巡りツアーの開催や、(一社)甲賀市観光まちづくり協会による市内観光資源を回る会員向けのモニターツアーの実施等、ツアー企画に取り組みました。				
(2)市民・事業者との協働		本市における観光振興に対する市民・事業者の意識は、地域による格差が大きいことが指摘されており、全市民的な観光振興への関心は十分とは言えない状況です。幅広い市民・事業者の参加を促す取り組みを推進し、市民・事業者との協働による観光振興の充実を図ります。				
①観光協会の機能強化	本市における観光振興の中心的な役割を担う観光協会が地域と連携して取り組むツアーの造成や商品の開発など、新たな財源の確保や組織の機能強化に向けた取り組みを支援します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	(一社)甲賀市観光まちづくり協会と信楽町観光協会が連携し、GOTONINJAクーポン事業を実施するなど、新たな取組を行いました。また、周遊型観光促進事業(観光メニュー・コンテンツの造成)においても両協会が事業協力・連携し、観光コンテンツ・体験メニュー・周遊ツアーの造成を進めました。				
②観光ガイドの育成と組織化	外部人材の活用も視野に入れながら、観光ガイドの養成講座やスキルアップ研修を開催し、ガイドの人材育成及び組織化を進めます。 また、外国語ガイドの体制整備について、今後の誘客戦略を踏まえながら検討します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	観光おもてなしに係る接遇及びプロガイドを講師にお招きし、観光ボランティアガイド連絡協議会の会員を対象とした観光ガイドの育成強化を行いました。また、観光庁の「地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修」を活用し、新型コロナウイルス感染症の影響によりWEB講義となりましたが、インバウンド対応研修(英語初級、中国語初級)を実施しました。その他、忍びの里伊賀甲賀推進協議会事業として、日本遺産「忍びの里伊賀・甲賀」リアル忍者ガイド養成講座を伊賀市・甲賀市にて実施しました。				
③空き家・空き店舗等の活用	空き家や空き店舗などを、観光資源として開発したり、磨き上げたりするなど、地元や関係団体と連携し効果的に活用する取り組みや整備について、支援を行います。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	空き家・空き店舗活用を含む、旧東海道の暮らしにぎわい再生事業として、東海国土山宿まちづくり協議会において、地域住民との合意形成を図り、東海道のぎわい再生ビジョンの策定に向けて協議を進めましたが、取り組みや整備等の支援について、具体的に進められませんでした。				
④地域活性化のための多様な団体との連携促進	自治振興会や「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会など、市内の様々な団体が協働して取り組む観光資源を活用した地域活性化事業を促進するなど、公民連携した観光振興を推進します。	●	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	「スカーレット」で甲賀を盛り上げる推進協議会において、市内の様々な団体が協働し、市内の観光資源を活用しながら、地域活性化や観光誘客を促進する事業を継続的に実施しました。また、飯道山観光協会と連携しながら飯道山の登山道の整備を進め、観光ボランティアガイド連絡協議会とは観光おもてなし体制構築や観光資源への意識醸成の取り組み、東海国土山水口宿場会議においては東海道沿線の地域活性化に向けた取り組みを連携しながら進めました。				
(3)広域連携		観光誘客のさらなる促進やインバウンドの取り込みにおいては、甲賀市単独の取り組みだけでは限界があります。近隣自治体との広域的な連携や協力関係を確立し、観光客の行動範囲に対応した取り組みの充実を図ります。				
①忍者をキーワードとする自治体間連携の強化	忍者を観光資源として有効活用している先進地である伊賀市との関係を軸としながら、日本忍者協議会の活動を通じて、忍者を観光資源としている自治体との観光面での連携をさらに強化していきます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	日本忍者協議会においては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる事業があったものの、定期的なWEB会議により情報共有を図りました。忍びの里伊賀甲賀忍者協議会においては、WEBも含め定期的な担当者会議を開催し、情報共有を図りながら、ガイド養成講座、看板設置、サイクリング事業などを実施しました。				
②日本遺産に関する自治体間連携の強化	六古窯日本遺産活用協議会、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会等の活動を通じて、日本六古窯の所在自治体をはじめとする「焼き物」を観光資源としている自治体や忍者を観光資源とする伊賀市との観光面での連携をさらに強化していきます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会による事業展開や、日本遺産サミット等を通じた、他の日本遺産認定自治体との交流を図るなどの取り組みを進めました。				

③広域な地域ツーリズムの推進		近隣自治体との広域連携による観光ルートの形成や、誘客の促進、受入体制の整備など、交通アクセスの向上にともなう旅行者の行動範囲の拡大に対応した広域連携による観光振興の充実を図ります。 また、甲賀市都市農村交流推進協議会が行う中高生等の教育旅行の受け入れをはじめとし、同様の観光資源を持つ地域との連携を検討します。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 B	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会において、2市の観光資源を巡るサイクリングコースを造成し、そのPRを行いました。また、いこか連携(伊賀市・甲賀市・亀山市)において、三国岳を中心とした”いこかトレイル”を実施しました。					
(4)(仮称)甲賀市版観光DMOの設立		効果的な観光振興のためには、行政的な取り組みだけでは限界があります。観光まちづくりに関する専門的な人材を有し、観光振興とまちづくりを中・長期的視点から実践的にマネジメントする組織として、(仮称)甲賀市版観光DMOの設立に向けた取り組みを推進します。					
①観光振興のマネジメントに向けた検討について		観光まちづくりと観光振興を中・長期的視点からマネジメントできる組織の必要性について、共通認識を深め、国や他の自治体の動向を踏まえ、調査・研究・検討を進めます。	→	→	→	→	継続
R3実績	評価欄 C	国から講師を招き、観光DMOに係る勉強会の開催や先進地視察を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により開催できませんでした。					
②地域資源を活かした集客交流ビジネスの促進		市民に対して情報共有するため、これまで注目されてこなかった地域資源の再認識や発掘を行い、地域資源を活用したイベントを開催するなど市民の観光に対する機運を高め、集客交流ビジネスを促進します。	△	→	●	→	継続
R3実績	評価欄 B	周遊型観光促進事業において、新たに観光事業者を増やすことを目的にセミナーの開催を実施するなど、集客交流ビジネスの促進に向けた取り組みを進めました。					